

千年の森便り No.140

2015.3.20

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.digi2.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

3月15日(日)曇

参加者は、伊藤、鶴沢、久我夫妻、坂本、高橋洋子、根本、福島、村野、山口、吉澤の会員11名、ゲスト参加の市原さん(四街道市)、そしてヒメコマツ調査の尾崎さん(中央博物館)と助っ人の小泉兄弟(清和地区在住)の計15人でした。ときおり、雨がぱらつくはっきりしない天気でしたが、ニホンジカ生息調査、ホテイ岬竹林整備、竹材の運搬、保護柵の修理などの汗をかきました。また野鳥調査、シュンラン、スハマソウの観察などを行い、そこまで来た春の訪れを感じることもできました。(伊藤)



全員集合

○ヒメコマツ成長調査

今年も3月15日にヒメコマツのモニタリング調査をさせていただきました。平成22年4月に開始した豊英島におけるヒメコマツの植栽試験も丸5年が経過しました。この間に平坦地の試験地Aでは約4分の1が枯死しましたが、生き残った個体の中には順調に生長し樹高3メートルを超えたものもあります。急斜面の試験地Bではすべての個体が生存し、順調に生育しています。今後もこのモニタリング調査を継続し、ヒメコマツの生長過程を記録したいと考えています。きっと10年先には立派な木になるものもあると思います。どうぞ、今後ともご協力くださるようお願いいたします。(尾崎 煙雄)



助っ人も加わってヒメコマツ調査

○ニホンジカ生息状況調査

2014年度4回目のニホンジカ生息状況調査を行いました。調査時間は10:03~10:33で、いつものように島内を7コースに分かれて踏査し、シカ(目撃、声、足音)とその痕跡(フン、足跡)を探索しました。今回もシカの目撃はなし。足跡とフンはホテイ岬で確認されました。前回の12月の調査結果と同様に、この時期、シカは島をあまり利用していないようです。(福島)



ニホンジカ調査健脚コース

○ホテイ岬の森林整備

豊英湖の湖面に近づけるホテイ岬は、豊英島が尾根だった時は落葉広葉樹林であったと思われるが、現在は、名前の由来となったホテイチクやマダケがうっそうと繁茂している。これまで、ホテイチクやマダケに鹿食害が見られたため、保護柵を設置したり、伐採を控えてきた。そのためか最近では枯れた木や竹が目立ち、このままでは豊英ダムの流木竹となる可能性も出てきたことから、昨年より森林整備に取り組み始めている。数回の活動でだいぶすっきりしてきて、湖面越しにつり橋が遠くに見える新たなビューポイントが生まれつつある。伐採した竹は、架設物置の屋根に有効に利用したい。(伊藤)



伐採竹は広場に運び

○植生保護柵の補修

根本さんと二人で植生保護柵の補修作業を行いました。1か所目は、吊り橋下のスズタケ保護柵です。去年の雪で大きなコナラの枝がネットを直撃しネットがたるんでいたため、枝を撤去しネットを張り直しました。2か所目は、1番古いモミ混じり巨木林区域の保護柵です。こちらは、ネットの角のアンカー（木杭）が腐朽し、ネットがたるんでいたため、アンカーを取りネットを張り直しました。3か所目は、広場近くの保護柵で、枝の落下により支柱が曲っていたため、まっすぐに直しアンカーを取って補修しました。（福島）

○シイタケの発生状況

広場の近くにある、13年植菌ヨロイ伏せのホダ木から、多くの椎茸が発生していました。このところ、雨天が続いたので、椎茸には絶好の環境だったと思われます。この場所からは5.5kg、他のホダ場から1.5kg、合計7kgの発生でした。（久我）



ヨロイ伏せホダ場に多くのシイタケ

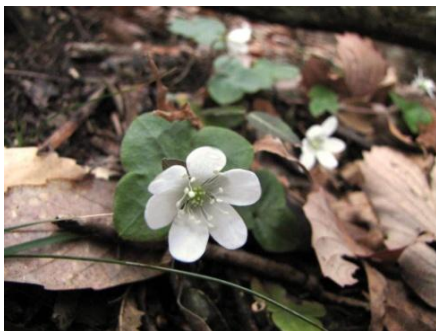
○植物観察

曇り空、時おり雨、時々晴れ間、と変わった天気の日でしたが着実に春の気配が感じられた1日でした。保護柵内かわいらしい色のシュンラン、ほこら山裏の湖畔に可憐に咲くスハマソウ。そしてマメザクラなど春を待ちわびるかのように芽吹きはじめ、鳥達も賑やかになってきました。来月、森がどんな表情をみせてくれるか楽しみです。（吉澤）

二ホンジカ調査の途中、スハマソウが吊り橋近くの北岸で7個、ほこら山北側で10個の花をつけているのを確認しました。ヒメフタバランは、まだ葉もつぼみも確認できませんでした。（福島）



北岸でスハマソウ観察



スハマソウ 3/15 福島



シュンラン 3/15 坂本



ヤブツバキ 3/15 福島

ホテイ岬のヤマナラシが枯死

坂本さん、久我夫人とホテイ岬で枯れたタケの片づけをしている時に、ヤマナラシ2本が枯死しているのを確認しました。枯死の原因は不明ですが、複数の個体が一斉に枯れているので、地下水位などの環境の変化や特定の病虫害が原因となった可能性があります（福島）

禁断の岬のヒカゲツツジ(右写真)

二ホンジカ調査の途中、禁断の岬のヒカゲツツジの状況を確認しました。以前の崖の崩壊で、崖のやや低い位置にあった株の一部だけが残っている状態で、葉の数が少なく株はやや弱っているような印象を受けました。（福島）



ヒカゲツツジ 3/15 福島

○カワウが営巣

シカ調査でホテイ岬方面を担当された久我夫人から「黒くて大きな鳥がいて近づいても逃げなかった」との情報があったので、様子を見に行くと、アカマツの大木と隣のコナラにカワウの巣が2つ出来ていました。巣に執着があり、逃げなかったものと思います。既に産卵していて抱卵中だったのかも知れません。巣の下の葉はカワウの糞により白いペンキでスプレーしたように汚れていました。

カワウは近年急激に生息数が増えて漁業被害と集団営巣地での糞害が深刻になっている問題の鳥です。東京湾には万を超える大群がいますから、沿岸部での営巣地不足から山奥にまで進出してきたのでしょうか。豊英湖で賄える餌の量から考えて、これ以上大幅な巣の増加はないと思いますが、東京湾から餌を運べるとすると島中が巣で覆われる事態になるかも知れないので要注意です。（坂本）



カワウ 3/15 坂本



カワウの巣 3/15 坂本



トビの巣に卵2個 3/15 坂本



ホオジロ 3/15(豊英島外)吉澤

○野鳥記録

カルガモ2 ホシハジロ14 キンクロハジロ6 キジバト1 カワウ17 アオサギ1 トビ5+声
コゲラ声 カケス声 ハシボソガラス声 ハシブトガラス声 ヤマガラ囀り シジュウカラ声+囀り
ヒヨドリ声 ウグイス囀り エナガ3+声 メジロ声+囀り セグロセキレイ囀り カワラヒワ4
ウソ2+声 以上20種 (坂本)

○センサーカメラの動物

久しぶりにアライグマが吊橋近くの島入口に写っていました。これも要注意動物です。立ち上がった姿が千葉市動物園のレッサーパンダに似て珍しいと思いましたが、アライグマにはよくあるポーズの様です。（坂本）



アライグマ 3/14 3:24 センサーカメラ

千年の森をつくる会の活動に参加して

千年の森をつくる会の活動に参加させていただきありがとうございました。春の息吹を満喫しながら豊英島の美しい自然と触れ合うことが出来ました。島では純白で美しいスハマソウが斜面ギリギリに咲いていて、ヒメコマツの自生地を思わせるような場面が印象的に映り、シュンランは此処にもあっちにもと咲き誇り春の訪れをアピールしていました。カンアオイさんにはちょっと失礼して枯葉を取り除いて見ると何と驚き！そこには可憐な花の妖精さんが顔を覗かせ花物語を魅せてくれました。竹の運搬作業では少々の疲れも感じましたが、お昼時の森の中に響き渡る嬉しそうな歓声で、いつの間にか気分爽快へと変わって。二ホンジカの調査や、野鳥観察、特にヒメコマツ観察隊の参加などもあり早春の豊英島は賑やかで活気に溢れていました。（四街道市 市原正則）



お知らせ

○4月定例活動日 4月19日(日) 9時30分県民の森駐車場集合、年次総会、倒木処理・植生保護柵補修などの森林整備、植物調査、野鳥調査など計画しています。多くの会員の参加を歓迎します。

平成27年度年次総会のご案内

日	時；4月19日(日) 午前10時～
場	所；豊英島
議	題；26年度活動&会計報告、27年度活動計画&予算、役員改選、 その他。 欠席の方は事務局長宛てメール又はハガキで委任状を提出下さい。

○会費の値上げについて

2014年4月の総会で、「会財政が非常に厳しいため、会費を1000円から2000円に、家族会員は3000円に値上げする。ただし2015年度から実施する」と決定していますので、2015年度会費から一人2000円又は一家族3000円の納入をお願いします。

○会員の退会

ミ・ルインさんは豊英島での調査・研究をもとに修士論文「菌従属栄養性ランの保全に向けて：クロムヨウランの生理生態的特徴の解明」を提出、修士課程卒業を機に3月末で退会申し出がありました。退会届には以下のメッセージが添えられていました。また修士論文のレジメをお預かりしていますので、論文の公式発表後に、会員の皆さんには本誌に添付して紹介します。

今年3月をもって、豊英島での調査研究を基に修士論文を提出出来まして、修士を卒業する事になりました。この際に、ちば千年の森をつくる会を退会いたします。

2年ほどの間、豊英島での調査へのご協力有り難うございました。皆さまには色々、大変お世話になりました。調査以外でも、皆さまと一緒に活動に参加できたことは、とても楽しく、充実した経験でした。また機会がありましたら、昨年7月生まれた息子のショ君と一緒にきのご観察会などに参加できたら幸いです。その節はよろしく願いいたします。 (東京大学大学院 新領域創成科学研究科 自然環境学専攻 奈良研究室 宍茹滢)